

演題 16. アディポネクチンの基礎検討第一報

○田中暁 山田昌史 長東美恵 津村真由美(東京女子
医大八千代医療センターメディエンス検査室)
岩下宏宣(同医療技術部臨床検査室) 橋本尚武(同
糖尿病代謝内科)

【目的】アディポネクチンは脂肪組織特異的に産生されるホルモンであり、その産生低下が糖尿病・高血圧・動脈硬化症を引き起こす一因であると考えられている。中でもアディポネクチン高分子構造体(HMW)がより病態を反映するとも報告されている。今回、2型糖尿病患者を対象とし脂質代謝項目と併せて、血清中の多量体アディポネクチンを高・中・低分子に分別測定し、病態の把握に関連性があるか検討を行ったので報告する。

【対象】当院糖尿病代謝内科患者 27 名(男性 21 名、女性 6 名、平均年齢 63.1 歳±10.8)である。

【方法】対象項目としては総コレステロール(T-CHO)、LDL・HDL コレステロール、BUN、Cre、Glu、HbA1c を測定した。アディポネクチンはヒト多量体アディポネクチン分別キット(第一化学薬品)を使用し、ELISA 法にて総濃度、高(HMW)・中(MMW)・低分子(LMW)濃度のアディポネクチンを測定した。

【結果】2型糖尿病患者において $4\mu\text{g/ml}$ 以下の低アディポネクチン患者は 27 名中 12 例(44%)であった。患者 BMI と各アディポネクチン濃度とは負の相関が認められた(vsTOTAL: $r=-0.308$ 、vsHMW: $r=-0.280$ 、vsMMW: $r=-0.334$ 、vsLMW: $r=-0.214$)。T-CHO、TG、HDL、LDL とは相関が認められなかった。HbA1C とは弱い負の相関($r=-0.2617$)が認められた。

【まとめ】今回の検討において、2型糖尿病患者を対象とし、44%においてアディポネクチン産生低下が認められた。今後さらに検討を進め病態、未治療等の病期との関連性を検討する必要があると思われる。